

**冬場の東北で、これだけのトマトがとれる！**

今月は、東北新幹線古川駅から車で約30分宮城県登米郡豊里町にある(有)三菜寿さんを紹介します。平成8年農業構造改善事業として事務所、作業室含め13,146㎡(3,984坪)の施設で、「とり」ブランドを導入し大玉トマトの栽培を始められました。今年の4月で丸4年を迎えられますが、現在順調な経営を展開されています。広い作業室、育苗エリア300坪、の外、栽培エリアを3分割し、5段止めローテーション栽培による通年生産体系で運営されています。1区画あたり9,500本ヨーク桃太郎を植え込み2.5作、30~35t/10Rの収量をあげ、こちらで選果、箱詰し「べっぴんトマト」のブランドで、仙台市場へ出荷

されている。仙台ではいつも最上位の値がつくまでになったと、笑顔で脱サラで始められた代表者中沢さんは語ってくれました。労力は年間雇用パート7名と中沢さんで運営されています。ピーク時はパートさんが12名になるそうですが年間雇用契約でパートさんも喜んでいとのことでした。

現在の状態はすこぶる順調ですが、ここへくるまでが苦労の連続で、2年目までは試行錯誤の連続、3年目でなんとかなるかの感触、4年目で自信がついた。自分は高糖度あるいは有機などのこだわり商品ではなく「普通のいいトマトを作りたい、トマトはうそをつかないし、気候と相

談して地区環境にあわせた栽培管理をしていけば、消費者に喜んでいただけるいい物が必ず作れる、品質をさらにランクアップさせるのがこれからの目標」と力強い中沢さんの言葉でした。栽培指導にあたった村井常務も「日射量・温度の少ない東北でこれだけの品質、収量をあげられるまでになったのは、研究熱心な取組・情熱とその中からヒントを見つけ出すセンスがあったからこれだけの短期間でここまでこられた」と中沢さんに賞賛しきりでした。三菜寿さんの今後益々の活躍をお祈りします。

(担当 岡本正則)



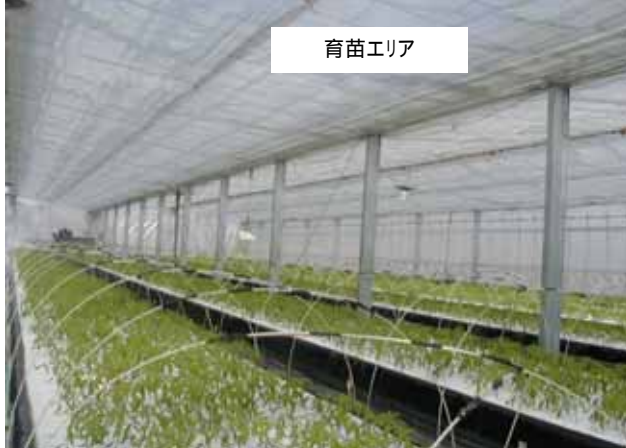
笑顔の中沢さん



見事なトマト



収穫風景



育苗エリア

**みつばの日今年も全国で！**

今月の8日は、今年で第8回目となったみつばの日でした。今年は「日本の薬効野菜みつばで元気回復！」のテーマを掲げ例年通り全国M式水耕みつば普及振興会(会長石川保)の主催で、大分・滋賀・千葉・青森・埼玉・静岡・愛知・三重・大阪など各生産者の協力で、施設へのみつばプレゼントをはじめ種々の

企画で展開されました。施設では、この日を楽しみにしているとこもあり定着してきた感があります。右写真は十四山桜ドームでのみつば入りカップ麺試食風景です。カップ麺1000食とみつば100ケースが3時間足らずではけたそうです。生産者の皆様、日清食品、東海物産など商品提供いただいた各社に感謝するしだいです。

